

## 3年生国語表現・連詩を学ぶ(令和4年10月11日)

10月11日(火)、3年生の「国語表現」の選択者が詩人のヤリタミサコ様から「連詩」について学ぶ機会がありました。ヤリタ様は日本をはじめ海外でも朗読会を行い、2019年には詩集『月の背骨/向う見ず女のバラッド』で第53回北海道新聞文学賞を受賞されている方です。ヤリタ様から人間と動物との違いは文化を持つこともその一つであること、言葉と音楽と絵画は原始時代では一体であったこと、言葉が文字となり印刷技術が発明されてからは歌と文字が分離していったこと、現代詩は形式や語数のルールなどがなく完全に形式が自由であること等の説明があり、その後連詩を創る際の注意として、前の人の詩と関係のないことを言わない、詩に一体感を持たせる等の説明がありました。詩という表現は直感を大切にしている、感じ方は人それぞれなので、その時々で感じ方が異なるのが現実の感覚であるということでした。

これから生徒たちは連詩の作成に入り、完成した作品を文化祭で発表する予定です。

